

## 編集後記

『戦史研究年報』第五号をお届けします。

本号は三号までの基本的なスタイルに戻り、戦史研究発表会特別講演録、論文四本、研究会記録二本、史料紹介二本、国際会議参加報告二本、活動報告という構成になりました。講演録の掲載を許可して下さった伊藤隆先生、研究会での報告原稿の翻訳掲載をお許し下さったホーニツヒ、ランベス両先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

四本の論文は防衛研究所戦史部員が研究成果をまとめたものです。このうち三本は平成十三年度の戦史研究発表会でその主な内容が口頭発表されており、いずれの論文もこれまで研究されることの少なかつたテーマを取り上げています。横山論文、高橋論文は、近年、盛んに実施されている防衛交流の起源とも言える事象に焦点を当てています。荒川論文はとかく作戦戦闘の影に隠れがちな軍戦備の問題を論じており、その重要性を改めて認識させます。立川論文はオーラル・ヒストリーを従来の歴史研究の手

法と融合させるという意欲的な試みです。なお、本号から防衛研究所職員を対象に論文を公募することになりました。高橋論文は応募論文として採用になったものです。

ホーニツヒ、ランベス両論文は偶然にも湾岸戦争とコソボ紛争についてそれぞれの視点から論じています。読み比べてみるとたいへんおもしろいのではないのでしょうか。

史料紹介のうち「海軍技術研究所現状一般」は、現在、防衛研究所が所在する防衛庁目黒地区のかつての様子を伝える興味深い史料です。

平成十四年、防衛研究所はその前身である保安研修所が設置されてから五〇周年を迎えます。いくつかの記念行事が計画されておりますが、『戦史研究年報』も次号は何らかの特別企画を立て、五〇周年に花を添えたいと考えております。

二十一世紀に入り、戦争や安全保障概念に対する新たな認識が生まれています。伊藤先生の講演録にもございますように、我が国の軍事史研究も新たな方向性を持って発展することが期待されています。

(立川 京一)

## 編集委員

林 吉永 (委員長) 山村 健 庄司潤一郎 白石博司  
中尾裕次 塚本隆彦 立川京一

## 編集・翻訳スタッフ

伊藤信之 荒川憲一 戒能善春 野村佳正 進藤裕之

## 戦史研究年報 第五号

平成十四年三月三十一日発行

編集 防衛研究所戦史部

発行 防衛研究所

〒153-8648 東京都目黒区中目黒二二二-一  
電話 ○三―五七二―七〇〇五 (代表)